



HUMMINGBIRD  
HUMMINGBIRD



Masa Sumidé  
Masa Sumidé

HUMMINGBIRD Masa Sumidé

～最後の1枚～

ソロギターにスタイルを変え、”再デビューCD”を出してから、昨年で25周年。感慨深いのはもちろんですが、時が過ぎ去るのは早い(!)というのが正直なところです。思えば、ソロギタリストを志したのが40歳でしたので、かなり遅い再出発でした。これまで定期的(ほぼ毎年)にソロギターCDを発表してきましたが、本作をもって「最後の1枚」とすることにしました。理由は3つあります。1つは、「いつかソロCD制作にも終わりが来るのなら、今が潮時かもしれない。やり切った感もあるし…」という思い。2つめは、左手・指関節の痛みやら、それが原因で弦が押さえづらくなってきたこと等、蓄積した職業病上の理由から。そして3つめは、CDというメディア自体が古くなってきていますし、正直なところ、売れなくなってきたという事実。まあ、売れる・売れないに関しては、自分の至らなさゆえですが。ただ「最後」と言っても、永遠のお別れではありませんし、僕の中では悲壮感はありません。ライブ活動は今後も続けていきますので、ご心配なく。

で、今回のアルバムですが、メロディー優先で選曲しました。ゆえ、何曲かの候補曲はボツになりました。そして、アレンジもできるだけシンプルに。結果、これまでのアルバムより聴きやすくなっているかと思われます。演奏のほうは、「最後」ということを意識しすぎることなく、落ち着いて録音を終えることができました。僕からの願いはただ一つ— 皆さんに繰り返し聴いて欲しい(!)ということだけです。そんな願いを抱きつつ、リスナーの皆さんに全オリジナル14曲のバトンを渡したいと思います。最後に、これまで僕のCDに耳を傾けて下さった皆さんはもちろんのこと、度々レコーディングでお世話になったMusic Wellの戸田篤志氏、ジャケットデザイン関連でお世話になったsasakikazuhisa氏、通販の方でご協力いただいているプー横丁、並びにドルフィンギターズさんにも感謝いたします。また、プーさんには、本作をいち早くご試聴いただき、各曲へのコメントまで届けていただきました。以下、僕が書いたものと併せて、本アルバムのお供にしていただければ幸いです。

住出勝則(Masa Sumide)

※追記

今回使用したマイクはオーストラリア製でした。  
1999年の初ソロギターCDを録音/リリースしたのがオーストラリアでしたから、  
一巡して、何とも不思議なめぐり合わせと言うしかありませんね。



## 1 あたたかい時間 (standard)

皆さんにとって「あたたかい時間」とは、どんな瞬間でしょうか？ 文字通り、お風呂につかっている時かもしれません(笑)、すごく懐かしい人と再会した時とか、予期せぬ優しさに触れた時とか、満面の笑みで迎えられた時などなど、やはり「あたたかい時間」と呼べますよね。逆に「つめたい時間」と対比させれば、いかに「あたたかい時間」が貴重なものか身に染みて分かるというものです。

## 2 HUMMINGBIRD (DADG ♭ BD/2 capo)

「ハチドリ」…カラフルで、小さくて可愛らしいのはもちろんのこと、あの超高速で羽ばく姿も美しい！ CDジャケットの僕は、そんな速さに目が回ってます(笑)。そして、ハチドリは「幸せの青い鳥」として、愛と幸せの象徴でもあるそうです。このアルバムのタイトルにしたのも、それが理由です。僕もギターで愛と幸せを届けられればと願っておりますし、そう、あやかりたいものです。



## 3 優しさに気づいた時 (dropped D)

十人十色。ゆえ、優しさの表現方法も人の数だけあることでしょう。「の人、優しくないなあ。冷たいなあ…」と思っていた人が、実は、凄く優しい人だったりとか、人は外見や物腰だけではよく分かりません。だから、第一印象って、良くも悪くも自分で固定してしまうので、100%確かなものではないですよね。だから「決めつけ厳禁」(笑)。優しさにも色々”形”があるはず。

## 4 哀色 (standard/2 capo)

残念ながら、すべての愛が実を結ぶわけではありません。愛を育んでいる時は、まさにバラ色。しかし、いつか色あせる時が来てしまう…というのが世の常。そんな“切ない色”を音にしたのが、この曲です。別に愛を否定的に見ているわけではないのですが、想いに反して、そうなることが多いかな、ということです。

## 5 Whippet Good (DADGBD/2 capo)

オーストラリアに住んでいた頃に飼っていた愛犬の「エルちゃん」ですが、僕のギター音楽に馴染みのある方は、すでにご存じかと思います。これまで何曲も彼女のために曲を書いてきましたが(親バカ！？)、また1曲、新たに加えることに。僕が我が娘のように可愛がっていたウイペット犬…今では、写真と記憶の中でしか会えないのが寂しい限り(涙)。

## 6 Please Call Me “情” (standard)

海外で「Joe(ジョウ)」という呼び名は、日本でいうところの「太郎・花子」くらいお馴染みのもの。それを漢字の「情(ジョウ)」とかけたタイトルですが、自分に対して「なさけ」のある人間であります(！)という願望も込めてあります。奏法としては、指弾きではなく、ピックで弾いて、少しハードな感じに仕上げてみました。めずらしくパーカッションを加えましたが、音源打ち込みの方は、Music Well Studioの戸田氏にご協力いただきました。

## 7 Treadin' Easy (dropped D)

時は1999年一初めて発表したソロギターCDのタイトル曲。今回、「原点回帰」の意味を込めて再収録することにしましたが、当時のアレンジを少し変えて「今の僕の感覚」で演奏してみました。この”始まりと終わり”的めぐり合わせ…。自分で選択したとは言え、感慨深いです。





## 8 古都の秋 (EADGBE b /6 capo)

「京都」は四季を通して、それぞれの魅力、風情を感じさせてくれますが、やはり「秋」は格別。リズム的には3拍子のイメージがあります。そして、アレンジ的には6フレットにカポタストをして、意図的に高音を多用しています。1弦を半音下げたチューニングでなくとも成り立つ曲ですが、下げた開放弦の響きを利用するために、そのチューニングにしてあります。たった半音ですが、されど半音。



## 9 コタツとミカンとネコとギター (standard)

世の中、抜群に相性がよい組み合わせってありますよね。食べ物であれば、「ごはん+味噌汁」、「ラーメン+餃子」、「ビールと枝豆」などなど、挙げると切りがありませんが、究極は、この曲のタイトルのコンビネーションではないでしょうか！少なとも、僕にとっては、すごく暖か味を感じるセットなんですね。ということで、ほっこりとしたバラードに仕上げました。眠くなるくらい気分よく聴いていただけると、僕の心も温かくなるというもの。

## 10 爺のブルース (standard)

冗談ではなく、真面目につけたタイトルです！キーは、もちろん「G」！“前期高齢者ギタリスト”的僕ということで、ぴったりのタイトルかも(笑)。曲調を変えて「爺のバラード」にしてもよかったです、バラードだと、やっぱり響きが淋しすぎるんでブルースで(笑)。



## 11 "I love you"がたりない (standard)

素朴な質問：臆せず「愛してるよ」と言える人はどれくらいいるのでしょうか？洋画などでは「I love you」のフレーズを幾度となく耳にしますが、日本の実生活ではなかなか聞けないフレーズかもしれませんね。まず、恥ずかしいという気持ちが先に来るのかもしれませんし、「言わなくても分かるだろう」的な考えている人も多いかと察します。でも、やはり「その想い」は、何らかの形で伝えるべきですよね…伝えられる内に！

## 12 Deep Blue Ocean (DADGBD)

自然に関する音のイメージは湧きやすく、とくに「海」は曲になりやすいです。あの青く透き通った海水の色。そこに降りそそぐ太陽光…ですが、この曲のイメージは海の中。同じ青でも深海系の濃い色。すでに、何年か前に僕のYouTubeチャンネルでお披露目しておりますが、今回はエフェクトを使わず、チューニングもアレンジも少し変えて収録することにしました。

## 13 そよ風に君かおる (dropped D)

「そよ風」と聞いただけで、爽やかなイメージが浮かびます。そして、そんな中、草原にたたずむ可憐な女性…風になびく長い黒髪。そんな絵が見えてきます。あえて、メジャーなキーではなく、マイナーキーで、そんなシーンを表現してみました。

## 14 幸せを見つけに行こう (standard/2 capo)

最近の僕の座右の銘は、「やりたい事をできる内に」と、「会いたい人に会える内に」です。歳を重ねるごとに、そして、年齢が近い方々の計報を耳にするたびに時間に対する感覚が研ぎ澄まれ、「急がないと…」という強迫観念に似たような気持ちになることが多いです。だから、皆さんも、積極的に幸せを見つけに行きませんか！時間がある内に…生かされている間に。

# Masa Sumide "HUMMINGBIRD" ライナー by 松岡 POOH(プー横丁)



24枚目に当たるソロ・ギター・アルバムの本作が住出勝則さんの「最後の1枚」になるというニュースを聞いて非常に多くの方が驚かれたと思う。私もその1人で、「ラスト・アルバムを発表するのは余りにも早過ぎる」とファンの皆さんの中では署名運動が始まるのではないかと思っているが、住出さんご自身には悲壮感など全く無く、三つの理由を挙げて説明されていて「その決心」は固いようだ。 その言葉通り、完成された本作は「いつものMasa Sumide」のギターの音色、確信に満ちたクリアなサウンドで溢れている。 できるだけシンプルなアレンジを心掛け、メロディー優先で選曲したという住出さんのオリジナル作品全14曲をご紹介しよう。



## 1. あたたかい時間

なんとも心地よいメロディーである。様々な場面で感じる「あたたかい時間」が思い浮かび、アルバム制作時の住出さんの穏やかな気分も窺える。アルバムのトップを飾るにふさわしい作品。

## 2. HUMMINGBIRD

アルバム・タイトル曲。毎秒50回以上という高速で羽ばたく、全長6cmほどの軽量で小さなハミングバード(和名:ハチドリ)。空中で静止し、クチバシを花に差し込んで蜜を吸う姿は、本当に可愛い。愛と幸せを象徴するハミングバードをアルバム名に選んだ住出さんの気持ちが伝わってくる美しい曲だ。

## 3. 優しさに気づいた時

「あたたかい時間」よりも更にゆったりとしたメロディー。決して頻繁には使われる訳ではないので目立たないが、スライドさせる高音弦のフレーズが隠し味となって響く。実にカッコ良い。

## 4. 哀色

いかにも哀しい雰囲気を漂わせる切ないメロディー。こういう作品でも住出さんのオリジナル曲は輝きを放つ。決してウェットな方向に流れず、クッキリしたギター・サウンドの中に作品への思いがストレートに表現されている。

## 5. Whippet Good

これまでにも住出さんは前作『弦風景』に収録の「エルちゃんとテニスボール」や3rdアルバム『Shadow Dancer』に収録の「Skinny Dog Boogie」など、オーストラリア在住時にこよなく愛したウィペット犬「エル」に捧げたオリジナル曲を発表している。だけでなく、そもそも自身のレーベルに「Skinny Dog Music」と名付けているのである。その「エルちゃん愛」に溢れた楽曲のステキなこと!!

## 6. Please Call Me "情"

「少しハードな感じで仕上げた」というこの曲では、珍しくパーカッションが加わっている。そのパートを担ったのはオーストラリアから帰国して以来、住出さんのどのアルバムの録音・ミックス・マスタリングを任せている戸田篤志氏。住出さんだけでなく、岸部眞明や西村ケントなどベテランから若手まで日本のソロ・ギタリストの多くのアルバム制作に関わってきた業界屈指のレコーディング・エンジニアである。長年ミュージシャンとしてのキャリアも重ねている戸田氏の打ち込みによるパーカッション・サウンドが実に効果的で、作品全体の仕上りを更にタイトなものにしている。

## 7. Treadin' Easy

住出さんがライナーで感慨深く述べている通り、これは当時オーストラリアに住み、ソロ・ギタリストとしてのキャリアをスタートさせて初めて自主制作で1999年に発表したCDデビュー盤『Treadin' Easy』のアルバム・タイトル曲である。楽曲の流れやアレンジ全体に大幅な変化は無いものの、今回のニュー・ヴァージョンの随所に見られるニュアンスに富んだリックスの数々は、やはり25年近い年月を経たキャリアから生まれたものと想像できる。余談ではあるが、『Treadin' Easy』のアルバムを初めて住出さんから手渡された時に「ジャケットの内側にお花畑をバックにした僕の父母の写真を載せてるんですが、亡き父が凄く気に入っていた写真なんですよ」と住出さんが笑顔で話されていた。尚、『Treadin' Easy』のCDは現在も入手可能なので、お持ちでないファンの方は新旧のヴァージョンを聴き比べてみられてはいかがだろうか。

## 8. 古都の秋

スタンダード・チューニングの1弦(E)のみを半音下げ、6フレットにカポタストを装着するというアイデアがこの楽曲のサウンドを決定づけた。その卓越したセンスで、心に浮かんだ「秋の京都」をフィンガースタイル・ギターで鮮やかに描写し、表現する。まさに住出さんの独壇場である。



## 9. コタツとミカンとネコとギター

極上のバラード作品。「暖か味を感じる相性バツグンの組み合わせ」を並べ、それらをそのまま作品のタイトルにしてしまう住出さんのユーモア感覚に思わずニンマリしてしまう。お洒落な英語のタイトルをつければ、また印象もガラリと変わるかも知れないのに「コタツとミカンとネコとギター」である。

「このタイトル、イケてるでしょ?」と言う住出さんの「お茶目なドヤ顔」も想像しつつ聴く美メロ・バラード。格別の味わいだ。

## 10. 爺のブルース

「Key of G」で演奏するブルースなので「爺のブルース」と大真面目に付けたタイトル。ブルースのコード進行の中で、自由自在にプレイするMasa Sumide。緩急に富み、グルーヴしまくる演奏は、住出勝則だけが披露できるクールな世界だ。

## 11. "I love you"がたりない

印象的なハーモニックスで始まるこの曲は、スタッカートを効かせた主メロのカッティング・フレーズとベースが絡むところや、終盤の両手タッピングによるフレーズが繰り返されるパートなど、3分足らずの楽曲の中に様々な変化が窺える。

## 12. Deep Blue Ocean

深海の濃い青(Deep Blue)をイメージして作曲されたというこの作品も、住出さんの情景描写をギター・サウンドに作り上げる類まれなセンスが窺える1曲だ。転調が施され、シンプルなメロディーが更にその魅力を増す。そのアレンジの妙も聴きものだ。

## 13. そよ風に君かおる

爽やかなそよ風に長い黒髪をなびかせて草原にたたずむ可憐な女性。ソロ・ギターで奏でられるソロ・ギター・プレイにその清楚な姿が確かに浮かび上がる住出マジック。流石である。

## 14. 幸せを見つけに行こう

この曲の住出さん自身のコメントを見ると年齢を経て時間に対する感覚も変化し「やりたい事をできるうちに」「会いたい人に会える内に」という気持ちになっていると吐露されているけれど、そんな思いとは裏腹に生まれた楽曲は、凄くポジティブな気持ちに溢れたものだ。「幸せを見つけに行こう」というのは、外に向かって発せられた住出さんからの呼びかけであると同時に、住出さん自身を鼓舞する自分への問いかけかも知れない。実に落ち着いた雰囲気のこの楽曲でアルバム『HUMMINGBIRD』は幕を閉じる。

さて、私見によれば、住出さんは60歳を越えたあたりからSNSでも自らの年齢について言及する事が多くなったようだ。そして今回の「最後のアルバム発表」のお知らせ。なんだか住出さんから「終活の報告」でもあったような気持ちになられた方もいらっしゃるかも知れない。でも、ファンの皆さんにはその事を嘆いたり落胆したりされる必要は無いように思う。ライブ活動は今後も続けていくうなので、コンサート会場に足を運べば「いつだって住出さんに会えるし、住出さんの演奏が聴ける」のだから。住出さんの事だから、新しいオリジナル曲も次々と作り、ライブで披露されるだろう。

音楽の発表の場が今後はアルバム制作ではなく、ライブ活動が中心になっていくというだけの事だ。そう考えれば、楽しみは更に増える。なぜなら、世界の音楽シーンにはギタリストを例に挙げただけでも、ライブで本領発揮しているアーティストが多いことを私たちは知っているからだ。住出さんの友人でもあり世界的なギタリストの1人であるトニー・エマニュエルは1つ年上の69歳。タック&パティのタック・アンドレスは71歳で、まだまだ元気に演っている。海外ではチャット・アトキンス(77歳)、B.B.キング(89歳)、ドック・ワトソン(89歳)、レス・ポール(94歳)といったレジェンド達が最晩年まで現役バリバリで音楽活動をしていたのは周知の事実だ。

40歳からソロ・ギタリストを志し、常に前を向いて歩み続けてきた住出さんなのだから、海外の尊敬する諸先輩たちのエネルギーッシュな活動ぶりを見習い、彼等への思いも馳せつつ、更なる「音楽の旅」を続けて頂きたいと思う。本作『HUMMINGBIRD』がそのスタート地点に立った事の証しとなることを祈念したい。

録音スタジオ: Music Well Studio(大阪・吹田)

録音期間: 2023年11月5日～10日

使用マイク: RODE NTK × 1 / RODE NT5 × 2(各オーストラリア製)

使用ギター: メイトン EBG808C

使用弦: エリクサー・ナノウエブ フォスファー・ブロンズ(カスタムライト弦)

